



# Kazé



ルヴァン便り No.7  
2015.6

夭折の画家 染織家・人間国宝  
**小野 元衛・志村 ふくみ 兄妹展**

文化学院 西村伊作との出会い

Motoe Ono & Fukumi Shimura Meeting with Isaku Nishimura at Bunkagakuin

この展覧会は、太平洋戦争直前という困難な時代に、文化学院に学んだ小野元衛とその実の妹・志村ふくみの人と作品を紹介するものです。

西村伊作は1921(大正9)年、自由な教育を目指し文化学院を、東京駿河台に創立しました。戦争直前の暗い世の中で、二人が学んだ文化学院だけは別世界で、思想的にも、日常的にも抑圧のない伸び伸びとした環境で、校長の伊作は最後まで反戦を貫き、投獄されても教育方針を枉げることはありませんでした。

この文化学院での学びが元衛・志村ふくみ兄妹に開花する

感性、芸術性の根幹に影響したと思われる。二人にとっては、まさしく青春の輝けるひと時でした。

小野元衛は重い病と闘いながら絵筆をとり続け、多くの絵画を残しながら、若くしてこの世を去りました。

芸術に対して純粹だった兄に恥ずかしくない仕事をしたいとふくみは常に念じながら、織物を続けてきました。繭から手紡ぎした糸で織りあげる細織の人間国宝 志村ふくみが、草木染めに魅せられ、手仕事を次世代につなげようと歩んできたこれまでの「織の道」の一端を兄、小野元衛の作品と共に展示致します。



小野元衛《朱の仏》1943年頃



志村ふくみ《青孔雀》2014年

## 西村伊作の建築を訪ねて - 日本基督教団倉敷教会会堂 - 倉敷市鶴形 国登録有形文化財

この教会堂が完成したのは1923(大正12)年のこと。築90年を経過した今も倉敷の街に異彩を放っている。

1階と塔は地元北木島産の御影石を荒々しく積み上げ、正面にはゴシック風の大窓。側面の縦長窓上には4連の小破風を配している。英国アーツ&クラフツ建築から大きな影響を受けた伊作の作風がよく表れ、彼の代表作とって過言でない。

1階は完成時から幼稚園舎として使われ、2階が礼拝堂。この2階には正面から石造のスロープが導く。2階内部は伊作の主張とおりレリーフや彫刻など極力排し、頭上にははさみ組と呼ばれる小屋組を見せる。簡素な中にも厳粛な雰囲気を出した優れた礼拝堂である。

伊作は倉敷に幾つかの建築を残し、この教会は彼がこの地で活躍する契機となった。彼はこの教会のほか保育所『若竹の園』や祐安の住宅など、現在判明しているものだけで8棟の建築を完成させた。彼がこの地で活躍するにあたって、林源十郎(1865~1935)の存在を忘れることはできない。林は本教会設立時からの熱心な信徒で、伊作の教育や生活改善の主張に強く共鳴していた一人である。

この教会設立時の信徒の中心には林のほか、後に倉敷紡績社長となる大原孫三郎(1880~1943)がいた。

大原は青年期、林に兄事しキリスト教の感化を強く受け、人道主義に基づく先駆的な倉紡の経営や数々の社会・文化事業は、倉敷の文化形成に大きな役割を果たした。

この教会堂は、意匠的に優れるばかりでなく、倉敷の近代史を今に伝える貴重な歴史的建造物である。

(建築史家 田中修司)



日本基督教団倉敷基督教会



礼拝堂内部

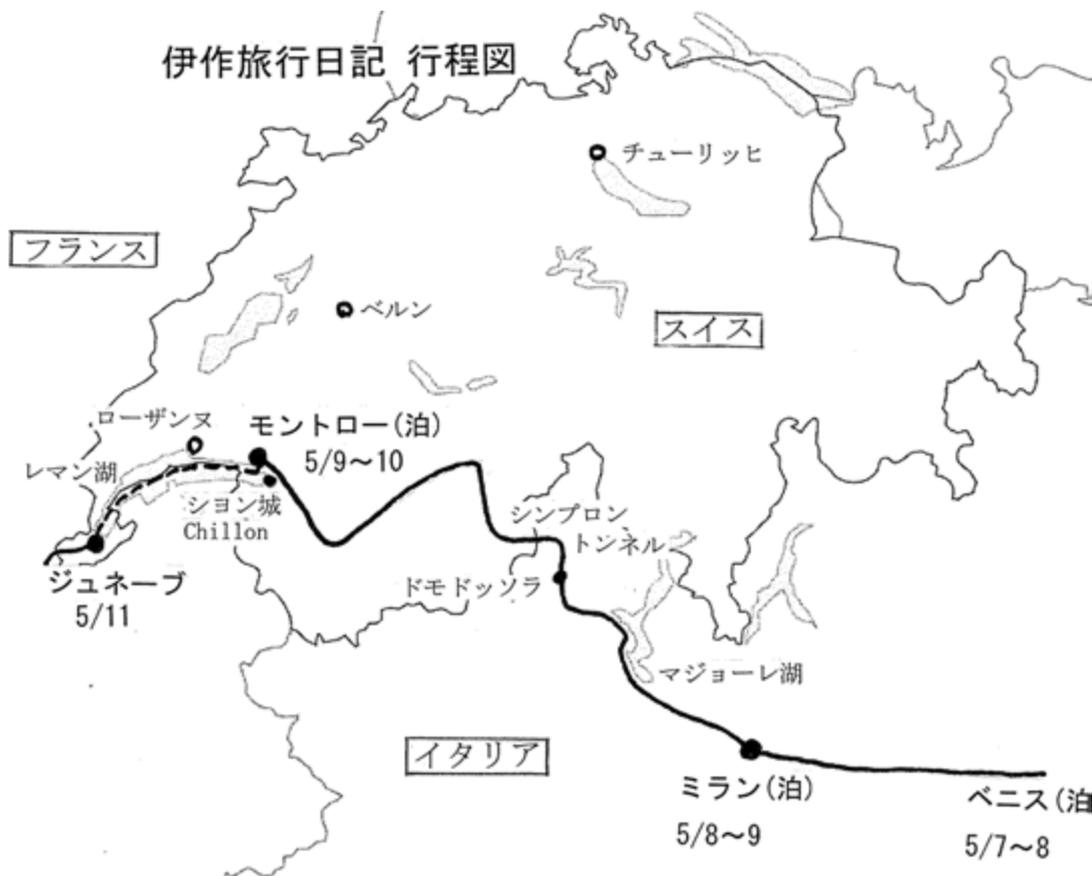
## 伊作の欧米旅行日記(6)

伊作は1909(明治42)年3月27日、ドイツの商船で横浜港を出港し、一月余りをかけてイタリアのナポリに到着、上陸した。その後、ポンペイ遺跡、ローマを巡り、5月7日ベニスに到着した。

今回の伊作の旅日記はこのベニスから始まり、ミラノを経由して、さらにスイス・レマン湖畔モントローそしてジュネーブまでをご紹介します。

ミラノを出発した伊作は、北イタリア・マジョーレ湖畔で車窓から眺めた風景の美しさに感激し「こんな所で一年ばかり暮らしたい」と記している。この地方からスイスの記述は、ローマなどの名所旧跡を巡った時のような通り一遍のものとは異なり、アルプスの風景や人々の暮らし、民家の様子などを車窓からではあるが詳しく記している。

なお、文中の( )内は筆者が加筆したもの。



### ●1909(明治42)年5月8日 ベニス

朝からアカデミーと云う画の多くある所を見、それからサリュートと云う寺を見、それから美術展覧会を見に行つた。近代絵画である。各国から出品して居る。ローマのよりは盛である。インプレッションイズムの勢力が強いらしい。午後五時の汽車でミランに向かう。

伊太利の田舎は奇麗である。面白く感じたのは桑の様な木を二間内位に植へ、木から木へ縄のようにぶどうのつるをかけ渡してある。その下にはむぎや色々のものを作つてある。土の百姓家がちらちら見える。岡になつた所にはオリーブの木が行列して居る。葉が灰色がかつて居る。遠くの山の頂には雪のかかつたの麗である。

凡て木の葉がまだ若く黄色を帯びて居る。そして凡て要に見ゆる雲が又面白い。夕日も奇麗だ。色彩に富む国でカラーリストの好む所であるはずだ。

### ●5月9日 ミランからモントロー

朝早く起きてカセドラルを見に行つた。偉大な建物である。ローマのセントピーターは大なるものであるが、この建物は彼の如く色くるしき建方でなくゴシック式のスラリとしたものである。悉く大理石、複雑なる屋根の飾り、柱に付けた彫像一々同じものとはなない。てすりの柱一本一本一々意匠が變つて居るのである。屋根の頂上へ上がると気味の悪い程高い。一番上迄昇るのに要る百七十三の階段を数へねばならぬ。四方パノラマの如く見ゆる。雲があつてアルプスを見る事が出来なかつた。

人口の割りに町がせまい。蓋し家が高く数層になつて居るから日本の町の如く広々と場所をとらないのであらう。朝十時半の汽車で瑞西(スイス)へ向かふ。大急ぎで宿に帰りステーションへ急いだ。ミランを出てしばらくすると湖水の辺へ出た。実に奇麗な湖水でアルプス連山を遠く見、青々と茂つた木は○に水にうつり島に群る家小奇麗な○○○別荘と致て、こんな所に一年計り暮らしたいと思つた。

それよりしばらくしてだんだん昇り坂になつた。トンネルの数が多くなる。山は陰しくなる。空気がつめたくなる。



シヨン(Chillon)城 伊作も訪れたレマン湖畔の古城

川の流れが急になり家はだんだん小さく少なくなるとドモドソラ(Domodossola)と云う伊太利とス井ツルの境のステーションへ来た。これからシンプロンのトンネル。此の山中に立派な道路がある。自動車で快く通り得る。籠を背にした女が路端で立ち話している。家は石灰石のうすつべなので拵へてある。屋根も同じく。トンネルへ入るとき機関車を取去り電車で引張る。トンネルの中は温度高くマド硝子には蒸気がかかる。二十五分で此の長いトンネルをぬけ通る。それからがすいつる。画で見た様な小さな山でない。壮大偉大然も甚だ奇麗である。木も亦美し。上の方は杉の如き木、下は柳ポプラーりんごの花さける。皆温和なる色。木の家例のせいろ組で、スレートの屋根。もう伊太利の塵を見ず。岩の上の寺、氷の谷、瀧、ローン川は未だ小さく而もゆるゆると流れている。砂を流さぬ為こん気よく石堰が〇いてある。山羊を連れた子供等から〇り汽車に向かつて手をふつて居る。Sionの城が岩の上に建つて居るのも面白い。詩を作る国である此土地が詩である。ス井ツルの山の特徴は頂が欧州人鼻の突の様に尖つて居る事だ。モンロー迄来て一夜とまる。

## ●5月10日

モンローはレマン湖畔にあり、南に面し前にアルプスの霊峰を望み、新開地らしく別荘計りあるところで、ホテルの数も多くある。肺病患者が多く来ると云う。VERY- MONTREUX- Chillonと連なつて居る。Chillon(シヨン)にはバイロンの詩で名高いといふ城がある。朝電車でそこへ行つて中を見た。粗末な石造りの家であり大きくはない。

女の案内者が佛語の要な〇な言葉で説明する。外から見ると此城は甚面白い。奇麗な別荘が多くある。みな風雅に出来て居る。屋根のこうばいのゆるきひさしの出たるス井ス式の屋根が多く瓦の赤いのやスレートの灰色などで葺いてある。若緑の中に点々と白き家赤い屋根が見へるのは何ともいへぬ美しい。自然と建築物の境がはつきりして居る。午後一時にモンローより汽船にてゼネバ(ジュネーブ Geneve)に向かふ。汽船は外車の奇麗な船で甚早い。

湖岸にそふて走る故奇麗な岸が見える。よく茂つた木立が水にうつり、色よき緑の岡の上の小さき家には白き布の洗濯物を干してある。木陰や岸辺の石に腰かけて編物や針仕事をして居る女や子供がある。三時半頃ゼネバに着。八時頃まで明るい。外へ出ず室に引込んで居た。

## ●5月11日

朝ゼネバの町を歩く。時計製造所を見る。〇に面白いものを見ず。午後一時半の汽車にてパリに向かふ。……

(田中修司)

## 2015年度 ルヴァン美術館のご案内

6月6日(土)～11月3日(火) 2015年

10:00～17:00

水曜日休館(7月15日～9月15日は無休)

展示替えの為、8月3日(月)午前中は閉館、12:00より開館。9月18日(金)は16:00にて閉館。

### ローズフェスティバル - バラとお茶の会 -

- 10:00～17:00 会費: 2,000円(各種特典あり) 6月20日(土)～7月5日(日)  
美術館入館券2枚、カフェでのお茶とケーキセット券2枚付き  
\*フラワーアレンジメント 体験教室 (1,000円 お茶付き) 7月4日(土)  
10:00～16:00 捧泉美先生  
\*美術館展示説明会 ルヴァン美術館副館長/木田三保 7月4日(土)  
14:00～(要入館料)

### ルヴァン サマーコンサート

- ① トイピアノと人形劇 (畑奉枝・青田いずみ・小川耕筈) 8月2日(日)  
② 近藤和花 ピアノコンサート 8月9日(日)  
③ ボサノバ (木村純・三四郎) 8月15日(土)  
④ 一噌幸弘 能管/しの笛・壺井彰久 (Va) ・望月太喜之丞 (鼓) 8月30日(日)  
⑤ "JuGen Project" 佐藤弘和 ギター・Karen Israelyan ヴァイオリン 9月12日(土)  
\*①は 開場 17:00 開演 17:30  
\*②④⑤は開場 16:30 開演 17:00  
\*③のみ 開場 18:00 開演 18:30  
ビュッフェ (予約制: 先着30名 1,800円) 17:00～  
入場料: 3,000円 (中学生以下: 1,500円) ワンドリンク付き  
\*④⑤は軽井沢ペット福祉協会チャリティコンサート

### ワークショップ 「志村ふくみ・洋子氏と一緒に植物染料でシルクのミニショールを染めます」

- 要予約: ①10:00～12:00 ②14:00～16:00 各12名迄 9月21日(月)  
参加費: 10,000円 (材料費を含む・ケーキ、飲み物付)  
志村ふくみ・洋子氏と一緒に植物染料でシルクのミニショールを染めます。  
植物で白い布を様々な色に染めて、自然の奥深さを感じて頂きます。

### トークショー 「志村ふくみ氏・高階秀爾氏(大原美術館館長)」

- 14:00～15:00～ 9月22日(火)  
要予約 入場は入館料のみでご参加頂けます。

### 秋のアートフェスティバル

- 10:00～17:00 美術館入場無料 10月11日(日)  
\*ルヴァン美術館の庭でのスケッチ大会  
\*トールペイント体験教室 中嶋祐子 L'Atelier Fleur (1,000円 お茶付き)  
\*美術館展示説明会 ルヴァン美術館副館長/木田三保  
14:00～(要入館料)

☆カフェテラス Cafe Le Vent、ミュージアムショップ Le Ventは、常時ご利用いただけます。

ルヴァン美術館: 〒389-0111 長野県北佐久郡軽井沢957-10 Tel.: 0267-46-1911 Fax.: 0267-46-1910  
東京事務所: 〒107-0052 港区赤坂9-6-14 Tel. & Fax.: 03-3401-8896 <http://www.levent.or.jp>